

第250回東京都都市計画審議会

議案・資料〔別冊(1)(意見書)〕

東京都市計画事業上篠崎一丁目北部土地区画整理事業の
事業計画変更に伴う意見書の審査について

一部不開示

(令和7年10月)

東京都

東京都市計画事業上篠崎一丁目北部土地区画整理事業事業計画変更（第5回）に伴う意見書

縦 覧 期 間
意見書受付締切り日

令和7年1月16日～1月29日
令和7年2月12日

意見書整理一覧表

| 意見書 整理 番号 | 意 見 書 提 出 者 | | | | | 氏 名 | 意見書 ページ | 摘要 |
|-----------------|-------------|-------|-----|----|-----|-----|------------|----|
| | 住 所 | | | | | | | |
| | 都道府県 | 区市町村名 | 町丁名 | 番地 | 号 他 | | | |
| 1 | | | | | | | 意 - 1 | |

〒163-8001

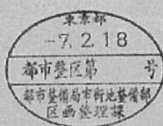


新宿区西新宿2-5-8-1

東京都都市整備局市街地整備部
区画整理課

公共区画整理担当

(東京都庁第三本庁舎11階)



X



意見書

○増家の中には変更図を見る暇が無いとか、私のように
ホームページに掲載してあります。とありましたがパソコン
がなく、北條崎まちづくり事務所に行き拝見させて頂きました。
私事ですが増家の方には変更図をお手紙に添えて頂けたら
近くで拝見出来、皆さんにも理解して頂けるのではないかと。

○お墓の移転について

また、スーパー堤防事業は国が法に上げ、河川防犯事業や
河川整備事業と一体的にまちづくりとして区民の安全安心をまち
として保ち、第1回高規格堤防(スーパー堤防)事業の説明会
があり、ここで妙勝寺移転の話がありました。私も増家で
あり、稲とアパートと隣り合地にもありますので、お寺さんの
苦悩は痛いほど伺っています。

そこで、[]が建設委員会(平成27年8月)に陳述した
資料がありますので添えておきます。
尚、私も陳情第8号と同じくこの街の住民の一人(増家)
である方が第9号を提出しているのをごらん頂ければと思います。

○スーパー堤防予定地の不安から、H19の善光寺さんへ行ってきれた。
堤防高の線が幅が狭い。増家も、2倍のちと試えていて、墓
の墓石が建っていました。お寺の方のお話を聞かせて頂き、
稲本堂の横壁に亀裂が生じていたことも知らせて、
ビュクリしました。この補償や増家さんの墓石の補償等と
教えて頂きました。ですから、妙勝寺墓地移転説明会
第2日目にも話させて頂きました。(令和6年11月23日)



妙勝寺 墓地移転 説明会を聞いて、

参加者 11月20日は100名、23日は300名と多くの増家さんが
出席くださいました。質問も多くの方が頂いていました。

○妙勝寺さんお移転するの、現開神庫は必ず移転は
無いのですか。

○ここだけ高台にしてどんな家が建てるのか

○スーパー堤防の区間の距離はどれくらいなのか。
今日で何分かかるのか、残ったところはおと何分かかるのか

○移転先となる堤防の現状よりどれだけ高くなるのか
等と質問がありました。

○この事業に関する情報は区公報に全て載りませんが、
(この上條崎/頂上地元の住民は、インターネットを
見ない限り全く理解出来ないと思います。)

○移転補償問題も出ていたが、東日本大震災に
耐れたお墓は高台にお墓を移転したと語っていました。
29万の言う通りで私も大変です。

○この事業で感じたいことは、行政側の考えは
素直にいいけど、権利者は素直に受け入れないといふ
ばかりに思いました。
高い税金を払い、2人お墓を造る(ないで、
大地盤で被災したお墓に使うとか、お墓に対するお墓
の費用に使うと大変なのではないかと。

最後に、仏教国なので手帳封印にしてください。

寺院を写っているのは、〇〇宗の僧侶と増家さん
妙勝寺では、春秋の彼岸会や法事、おちん静儀等
(秋にも人を集めて心の秋祭り、先祖供養をして心を清め
て頂く場として大事とします。
日本国に生きたことがあった。朝日鏡ありといふお釈迦様
に感謝しています。

「墓地移転」の中上を求める陳情

(建設委員会付託)

受理番号 第 9 号

受理年月日 平成27年6月12日

付託年月日 平成27年6月26日

陳情者

陳情原文 私どもは、江戸川区上篠崎「妙勝寺」に墓地を所有(使用)している者とその親族であります。

この度「上篠崎一丁目北部土地区画整理事業」により私どもの墓地が、僅か百メートルほど先に、移転するとの断をお聞きいたしました。

私どもは、この度の墓地の移転を中止していただきたく心から願うものであります。

その理由は次のとおりです。「妙勝寺」境内で守られている450基を超える私どもの墓地は、大正の堤防大改修の際と都立篠崎公園造成の際の二度にわたる墓地移転を経験しました。私どもの先祖は、そのつど大変な思いでその大事業に協力してきたのであります。そして近年になり、私どもは、時々に先祖の霊を尊崇して穏やかな日々を過ごすことができるようになってきたところであります。

つまりましては、この度の墓地の移転を再検討され、中止してくださるようお願いいたします。

江戸川区篠崎地域の「スーパー堤防建設・まちづくり計画」を求める陳情

(建設委員会付託)

受理番号 第 8 号

受理年月日 平成27年6月12日

付託年月日 平成27年6月26日

陳情者

陳情原文 江戸川区は、篠崎公園の地域にスーパー堤防をつくる計画を進めています。スーパー堤防とまちづくり(道路・区画整理・公園)が一体の計画で、多額の税金を投入し、住民に苦痛を伴う移転を強いて、今のまちをつくり変える必要は全くないものと考えます。

理由は次のとおりです。

(1) 篠崎地域はゼロメートル地帯ではありません。

篠崎地域は、水害時は区内で安全な地域です。

(2) 今の堤防は大正時代に改修してから一度も壊れず、丈夫です。

2008年には、河川へ堤防の補修工事が行われ、さらに磐石さを増しています。

(3) 盛り土をして、仮道にすると暮らしにくくなります。

高齢者、障害者には負担になります。

(4) 堤防は、川の増水時の避難場所にはなりません。

気象庁は、川の増水時には川に近づかないでください、と言っています。

(5) 地域の歴史と文化は大事にしなければなりません。

盛り土をして、浅間神社を埋地にし、妙勝寺とお墓を移転することは、歴史と文化を傷つけることになり、長くこの地に根付いてきた神仏への畏敬をおろそかにすることになります。

以上のことから、下記のとおり陳情します。

記

篠崎地域の「スーパー堤防建設・まちづくり計画」を即時撤回すること。

【平成21年 8月 建設委員会-08月04日-04号】 () の本人陳述分限)

◎・・・4 参考人・・・4でございます。

私は、鶴崎公園地区のスーパ一堤防をつくると、それに合わせて288を直してつくると、さらに、スーパ一堤防に該当する地区を区画整理し、新たな街づくりを進めるということが、平成17年でございましたが、突然地元にもたらされて、いろいろ地元での対応が始まったわけですが、スーパ一堤防化する必然性というのはあるのかどうかということが一番の問題になるわけですが、スーパ一堤防化するという前提に、カスリン台風の後遺状況がもとになって、200年に一度の大洪水に対応できるようにするためというふうな説明が当初あったわけですが、それからさまざまな理由が追加されてまいりまして、避難地区、鶴崎公園に道路をつくるんだとか、あるいはまた、液状化によるものであるとか、さまざまな理由が追加されてきたわけですが、要するにスーパ一堤防化ということではございまして、現在の江戸川は、大正2年に内務省の調査によりまして、堤防が整備された、そこが基礎のわけですが、それから20年ほどかけて約5m高の堤防ができて上がってまいりました。その旧堤防の時代にカスリン台風が襲ってきた。しかし、江戸川は全く決壊などしてなかった。決壊したのは利根川の右岸と左岸2カ所、さらに利根川の支流で11カ所、中川とか綾瀬川とかさまざまな川があるわけですが、その11カ所とさらに荒川水系での決壊、そういったことによって引き起こされたわけですが、そういう前提を全く無視して、江戸川区は、江戸川が決壊する、それによって60万区民が大被害をこうむるというふうな説明と申しますか、誤解と申すのか、そういう説明を盛んにさまざまな機会とメディアを通じて流しているわけですが、私は、江戸川は絶対に決壊することはないという認識でございます。

当初5m高であったものでも越水しなかった堤防を昭和40年初頭にさらに5m高を上げて現在の堤防ができて上がっているわけですが、当時、カスリン台風のときに利根川を流れた水量は1万5,000と、その後改めて1万7,000というふうに言い直しております。しかし、当時、江戸川に流れ込んだ水は8,100というふうな計算がされているわけですが、その後さまざまな河川の改修が進んで、それ以外、大きな被害は起こっておりません。それにはもちろんさまざまな利根川水系、荒川水系の東京湾に注ぐ川の堤防の整備が進んだということがございまして、また、一面で研究も進んだと、しかし、この研究が進んだということは、喜ぶべきことばかりではないと、そこから発表されてくる結果については、非常に要曲されていると言わざるを得ない。1万5,000から1万7,000と、1万7,000から2万2,000というふうに流量を上げてきています。引き上げて発表してきている。それで進みますと、到底耐えられる川の状況ではない。そこで堤防をより強固にすると同時に、ダムを建設すると、ダムに8,500を流し込んで、1万8,500を河川で対応するというふうなことを言っていたわけですが、しかしながら、既に六つあるダム群に対して、さらに十五、六のダムを加えなければ、これに対応できないと、ダム化が進められた。ところが、地元の堤防、あるいはまた公共事業への批判、そういうものによって、あるとき、1990年代、何と18のダムが9ダムは中止、8ダムは立ち消え、そういう状況。それじゃ、その8,500はどうするんだと、ところが、その回答はない。なぜ回答がないか、いろいろと私は専門家を尋ねて歩きました。そうしたら、それは当然なんだと。そんなに水が流れるんじゃないと、ダムをたくさんつくったというのは利水なんだと。水道水、工業水、農産物の発展によって必要化される水をため込むために、そういう考え方をつくったんだと。しかし、経済状況が変わってくる。人口も減ってくる。したがって、なくても対応できる。そんな莫大なお金をかける必要はないということで、なくなったわけですが、

それじゃ、なぜそう言ったのか、利水なんという、ダムをつくるところにばかり犠牲を強いて、我々の犠牲によって大都会が潤うだけじゃないかと、そういうことになるから、治水と。それで廃止しちゃった。

しかし、治水に必要ならば、工業用水、水道水が必要じゃなくなつて、多目的ダムとして残さなきゃならない。そう考えるのは普通だろうと思ふんですが、必要がないということになる。しかし、2万2,000という高水量は減っていないというのはなぜなのか。ある人いわく、ダムを建設するという大土木事業にける予算が押さえていないのか、これはどうするんだと。大土木事業は必要だと。そういうところからある知事者が頭をひねって、高規格堤防なんていることを言い出した。したがって、ちょうど言い出された時期と廃止された時期がほぼ同時代、なるほどなというふうな感じがしますが、それは大前提ですが、利根川の水害はうんと低い。江戸川の水の態は高い。したがって、江戸川に流れ込む量というのは、どんなことをしたって

限られている。普通の川ならば、そういうときに同方向に同じような施設をつくる。しかし、江戸川はずっとそういう必要性というものを学者が指摘しても行われてこなかった。そういう現状です。

したがって、もし流れない水が江戸川に流れるというならば、国土交通省もそう言います。東京都もそう言う。それから、河川事務所もそう言う。当然それだけの水が江戸川に流れ込むとしたら、江戸川区なんかは破れるんじゃないよ。破れるのは隣接周辺の、水ががっと最初に来るところが破れるんだと。そんなことは常識だと、そういうふうな見解が本来の見解でありますけれども、水防ということは大事ですから、先ほど...1さんがおっしゃったように、あらゆる手段をもって犠牲を強くない水防計画を強化するというふうに考え直すべきであるというふうに考えております。

それから、時間がなくなっちゃいましたけれども、288号線も、静かな環境のいい住宅を築く必要はないという考えです。今回、計画されておりますのは、ピンクの路線ですが、現実にはここまで来ている。しかも、これが新又街道で、馬場街道です。こっちのほうが近回りなんです。事業所も何もないところをわざわざ通す必要はないというのが私の、そして、地元全体の考え方です。

時間がありませんので、以上です。

妙勝寺 墓地移転
説明会

【日時】 令和6年11月20日(水) 午後7時～
令和6年11月23日(土) 午前11時～

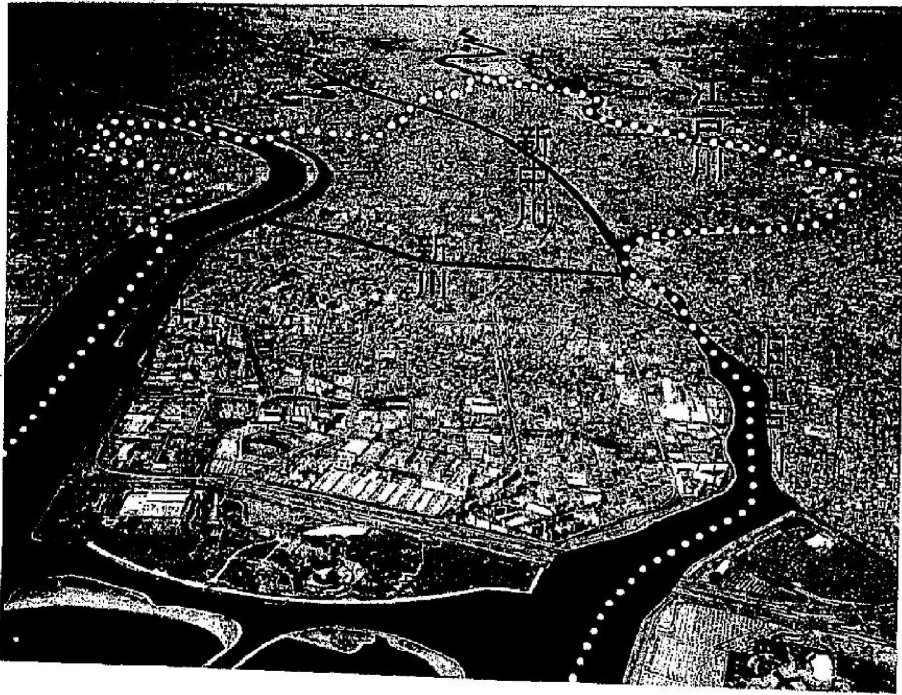
【場所】 篠崎第二小学校 体育館

篠崎公園地区 高台まちづくり事業 の概要説明

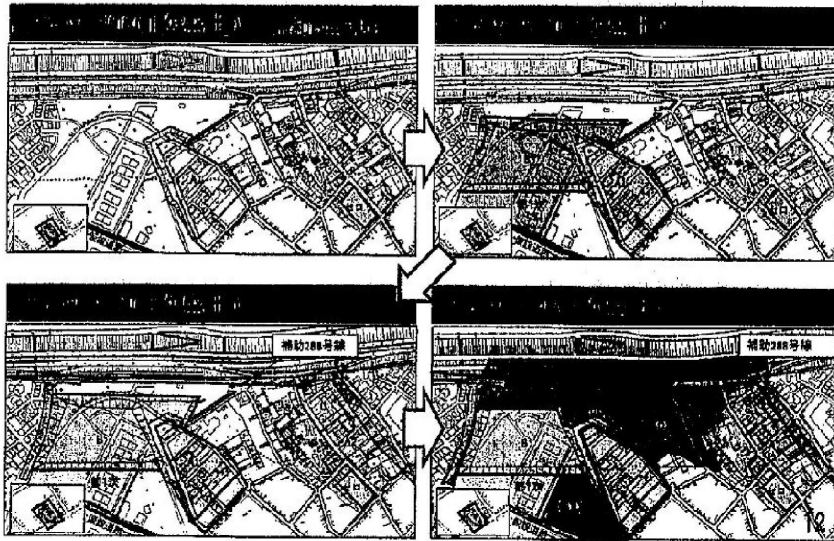
2

次 第

- ・妙勝寺 副住職 あいさつ
- ・江戸川区 土木部
- ・区画整理課長 あいさつ
- ・関係業者紹介
- ・篠崎公園地区 高台まちづくり事業の概要説明
- ・これまでの経緯と今後のスケジュール
- ・墓地配置計画案の説明
- ・個別訪問の実施



盛土工事 ステップ図

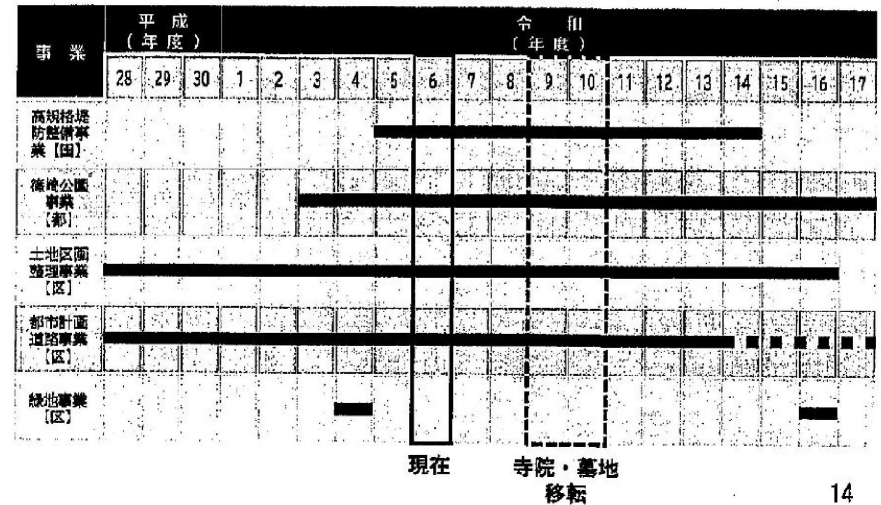


妙勝寺 移転先イメージ



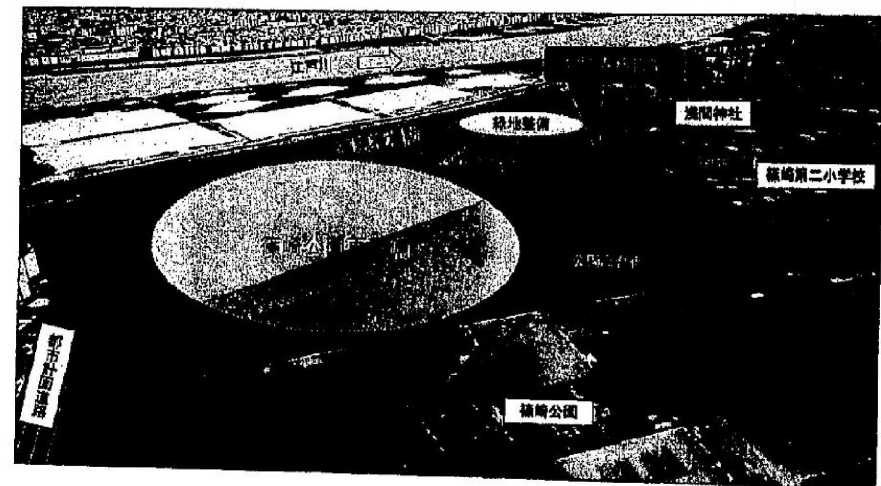
事業全体スケジュール

■事業着手(協定締結)から完成までの流れ(予定)



14

篠崎公園地区高台まちづくり 完成イメージ



15